

會 務

第 22 卷 第 5 號 昭和 11 年 8 月

役 員 會

第 6 回理事會 (昭 11-6-15)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，平山，萩原，藤井，沼田，宮長，宮本各理事。

1. 鉄筋コンクリート標準示方書の用語及規格改訂に依る増版を印刷発行することに申合せり。
2. 本年度追加豫算に就き調査協議せり。
3. 振興委員會よりの提案事項は次回理事會に於て協議することとせり。
4. 入退會の件。

飯野忍君外 13 名を准員に，秋竹敏實君外 43 名を學生員に入會を承認し，准員橋川保君を會員に，學生員青木光君外 22 名を准員に転格承認せり。

5. 編輯部に幹事(會誌編輯外の仕事に携る者) 4 名を置くこととし，その選定は編輯部長に一任せり。
6. 以上協議事項中第 4 項は報告し第 1 項は議案として常議員會に諮ることとせり。

第 7 回理事會 (昭 11-7-6)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，平山，萩原，藤井，沼田各理事。

1. 丹那隧道工事誌複製頒布の件を鉄道省熱海建設事務所長より承認せらる。
2. 伯林に於て開催の第 2 回國際橋梁構造會議へ本會代表として堀越一三君を出席せしむる旨鉄道次官より通知ありたり。
3. ワシントンに於て開催の國際大堰堤會議へ出席せらるゝ下記 4 君に對し本會の代表を兼ね出席せられんことを依頼せり。

鉄道省(ロンドン在留) 河合毅一君，逕信省 伊藤楨次郎君，矢作水力株式會社 杉山榮君，同 安藤新六君。

4. 明治以前日本土木史を 6 月 30 日より豫約者に配本を開始せり。
5. 工學會大會講演集の豫約応募は 7 月 5 日締切まで 2340 部ありたり。
6. 維新以前日本土木史編纂委員會最終議事を委員長より報告ありたり。
7. 日本工學會議事(メートル法使用に關する意見書提出の件)報告。

8. 編輯部幹事 4 名を下記の通り編輯部長より選定の報告ありたり。

廣瀬孝六郎君，野坂孝忠君，長田誠三郎君，鈴木誠一君。

9. 岩波書店と契約せる明治以前日本土木史の定価変更及之に伴ふ覺書の第 2 項更改の件は原案(省略)の通り決定せり。

10. 用語調査常置委員會を設置することとし追て役員會に諮ること。

11. 基金運用に關する委員會を設置することとし次回役員會に諮ること。

12. 工業教育調査委員會を設置することとし追て役員會に諮ること。

13. 會員社交機關設置に關しては總務部長に於て考慮することとせり。

14. 土木技術宣傳に關する映畫作成に關しては總務部長より金森君に相談することとせり。

15. 其他の協議事項。

各種國際技術會議連絡關係者に對しては毎年度に於て依頼すること。英國土木學會と會誌交換を爲すこと。日本工學會より申出の工學會館建設資金は本會に保管し居らざる旨回答すること。

第 3 回常議員會 (昭 11-6-15)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，平山，萩原，藤井，沼田，宮長，宮本各理事，河口，關，立花，鶴田，内田，小野，加藤，堀越各常議員，中川前會長。

報告事項

1. 伯林に於て開催の國際橋梁構造會議へ鉄道，内務兩省より歐洲へ在留中の土木技術者を本會代表として出席せられんことを兩省大臣へ願ひ出せり。

2. コンクリート調査會，臺灣震災調査委員會，關西地方風水害調査委員會の経過並に結果議事を報告す。

3. 7 月 8 日土木學會用語調査會中川幹事長及維新以前日本土木史論纂委員會眞田副委員長に依り兩委員會の経過並に結果に就て談話會を開催することとす。

4. 役員會及委員會其他會合の開催日(別表省略)を報告す。

5. 日本工學會評議員會議事を報告す。

6. 土木學會誌の發行日を7號より毎月1日發行に更し6月及7月會誌を6,7號1部として發行することとす。

7. 入退會(別紙省略を報告す)。

3. 新設委員會委員長及委員依囑(別紙省略6,7號誌第4回理事會記事参照)を報告す。

決議事項

1. 關西支部管内に岡山縣を加ふること及補助金増の件に就き次の如く申合せり。

(イ) 關西支部管内に岡山縣を加ふことは差支なし。

(ロ) 補助金増額は岡山縣を加ふこととは別箇の問題とし12年度豫算編成の際に於て改めて考慮することとす。

1. 工學會大會講演集、關西地方風水害調査報告、木工用語集を收支別表(省略)の如き概算にて發行希望者に頒布することとす。豫約販賣價及募集方法理事會に一任せり。

2. 鉄筋コンクリート標準示方書は用語改訂の増版にて發行することとす。

3. 土木技術に關する相談を受くる件は各方面より受けたるとき之が相談に応じ得る程度とすることとす。

總務部記事

第3回振興委員會第2部會(昭11.6.18)

出席者：古川委員長、内海、金子、兒玉、高橋、徳善、三浦、山口、山下、鈴木、金森、荻野、榊井各委員、平山、萩原兩部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

議事項

1. 土木図書館の設置計畫に就ては擔當の藤井理事委員缺席の爲之を保留することとす。

工業教育特に土木教育の改善に關する調査並に就ては下記提議の如く會長に提案することとす。

災害防止に關する調査並に建議の件は次回委員於て更に協議研究することとす。

土木工事取締規則に關する調査並に建議に就て府縣より該規則を取寄せ更に協議研究することとす。

會員社交機關の設置は必要と認むるを以て下記の如く會長に提案することとす。

6. 基金運用に關する調査に就ては下記提議の如く會長に提案することとす。

7. 各種委員會の調査事項に對する一般會員の意見を集めること並に各種委員會の進行に關し可成中間報告を提出せしめられんことを會長に提議することとす。

8. 土木技術に關する宣傳映畫を作成し一般民衆に技術に關する智識の普及を計ることを會長に提案することとす。

昭和11年6月22日提議

振興委員會第2部會 委員長 古川淳三

會長 井上秀二殿

振興委員會第2部會は全會一致を以て次の事項を提案す。

1. 工業教育特に土木教育の改善に關し調査研究の必要ありと認む依て至急調査委員會を設置しその結果を政府に建議されたし。

2. 會員社交機關を設置する必要ありと認む。

3. 基金募集及運用に關する調査委員會設置を望む。

4. 各種委員會の調査事項に對する一般會員の意見を集められたし。

5. 各種委員會の進行に關し可成中間報告を提出せしめられたし。

6. 土木技術に關する宣傳映畫を作成し一般民衆に對し技術に關する智識の普及を計られたし。

第4回振興委員會第3部會(昭11.6.22)

出席者：太田尾委員長、野坂、伊藤、奥田、佐藤、千秋、須之内、瀬戸、瀧山、南保、服部、本間、松井各委員、平山總務部長、柴原書記長、小野寺庶務主任。

平山總務部長より學會の新陣容、事業の進捗、3部會今後の動向等に就き懇談あり次いで議事に移る。

1. 都制案に關する問題は是を法制部に回付する事とし、以後同部に於て引続き研究を進められん事を提議す。

第3部に於て討議せる事項を總括すれば

(1) 技術の神聖を擁護すべく土木關係事業の遂行機關は飽く迄技術家本位に組織する事。

(2) 事業の計畫樹立並びに實施は技術家は是に當り徒らなる外部的の政治干渉を卻け、秩序と連絡ある統制をなし得る如き機構たらしむる事。

(3) 技術行政のみならず學術の研究をも自由ならし

め以て円満なる技術の進歩發達を助長し得べき機構たらしむる事。

(4) 社會の重要部門を占むる代表として他の一般行政にも參劄し得べき組織たらしむる事。

(5) 管轄内局課全般の人事は極はめて密接なる關係を有せしめ適時に適材を適所に配置し、充分其才能を發揮し得て能率の増進に遺憾なき様處置し得べき機構たらしむる事。

以上の大綱の下に作成せる試案を呈示すれば別表の如し。

2. 土木學會内に宣傳部を新設し絶えず新聞社並に映畫會社と連絡をとり是に日々ニュースを提供し、親しく一般民衆と接觸を保つ事により土木事業並に技術の本質を理解せしめられんことを提議す。

3. 次回協議事項。(1) 各地に於ける講習會、(2) 土木技術者の成人講習會、(3) 權威者による世界土木技術の最尖端を紹介する會、以上の諸案に關し其實行具體案を作成せんとす。

4. 雜記 (1) 學會と別個に土木事業に従事する者の政治團體を造つては如何、(2) 戦時に於ける都市防空對策を土木技術者の立場より考究しては如何、(3) 土木技術者の地位と人格に對し速かに其眞價を社會に紹介認識せしむる手段の考究を試みては如何、(4) 學會の催物に對し積極的な援助を試みては如何、(5) 更らに會員の増加と是が團結の強固を計る手段を工夫しては如何。

(別 表)

説明：工務監は現在の助役に相當し必ず技術家たること、參議は局長中特に功勞ありし者の中より選ばれ重要問題を協議し専ら外部に對して工務監を助け事を計るものとす、帝都計畫院は都全般の重要政策を審議する處にして官民各方面の有識者よりなり參議1名は必ず代表として席を占めさせる事。都市計畫科は土木關係事業の關聯的將來計畫を樹立する處とす。研究所の規模は局相當とし、各局課より隨時研究のため入所する事を得ざしめ、亦純技術家として行政方面に入る事を欲せざる者に對し途中より入所せしめ充分なる地位と研究の自由を與ふる所とす。局長は技術行政官を以て是に充つる事。

昭和11年6月22日提議

振興委員會第3部會 委員長 太田尾廣治

會長 井上秀二殿

振興委員會第3部會は全會一致を以て下記事項を提案す。

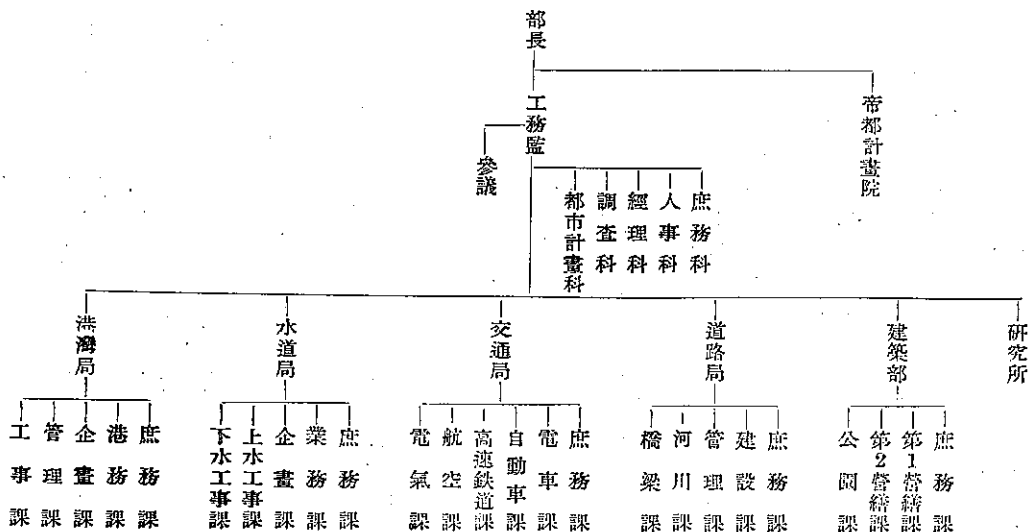
1. 都制案(上記の通り)

2. 土木學會内に宣傳部を新設し不斷新聞社及映畫會社と連絡を探り一般民衆に對し技術(特に土木技術)に關する智識の普及を図られんことを望む。

第1回土木技術者相互規約調査委員會(昭11-6-22)

出席者：青山委員長、川口、齋藤、鈴木、竹取、徳善、山口各委員、井上會長、平山總務部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

井上會長より本委員會設置の趣旨に就き挨拶あり次で議事に移り下記事項を協議せり。



1. 米國土木學會其他の學會にて制定せる技術者の言條と題せる規約並に米國及英國の學會にて制定した見約を蒐集し參考とすること。

2. 次回委員會までに各委員に於て思ひ付き事項を寄附し協議すること。

3. 幹事に齋藤、藏重兩委員を依頼すること。

談話會 (昭 11-7-8)

會場：帝國鐵道協會，來會者 60 名

話題：(A) 土木工學用語集の發刊成るまで
土木學會用語調査會

幹事長 工學博士 中川吉造君

(B) 明治以前日本土木史編纂委員會

副委員長 工學博士 眞田秀吉君

談話會終了後晚餐會を開く出席者 37 名

編輯部記事

第 7 回會誌編輯委員會 (昭 11-7-7)

出席者：關委員長，伊藤，板倉，稻葉，大久保，岡崎，加藤，嶋野，長田，野城，廣瀬各委員，藤井編輯部長，五十嵐編輯主任，紀成囑託

1. 會誌第 6 號として發行の豫定なりし第 3 回工學大會講演集を別冊として發行する事となりたる關係と 7 月より會誌發行日変更との關係より 6 號，7 號を合本とし 6，7 號として發行せる旨報告せり。

2. 第 22 卷第 6，7 號所載論說報告に對する討議依頼先及び同所載論文其他に對する謝禮を決定せり。

3. 第 22 卷第 8 號に下記寫眞及原稿を追加登載する事とせり。

工事寫眞：二俣線天龍川橋梁

抄 錄：土堰堤決潰の原因の推定(玉置)，管を使用する決瀉板の新裝置(玉置)，軌條繼目の對策(古賀)，桁橋の固有振動計算法(糸川)，木材支柱の實驗(糸川)，熔接桁の試驗(住友)，露西亞に於けるコンクリート・アーチ橋の支保工(本城)，機械の基礎に及ぼす害(吉藤)，ドイツに於ける最近の盾堰と其の操縦法(吉藤)，木材缺點に關する實驗と計算(糸川)，渦流の水力学的研究(米屋)，尿酸性と飲料水の澄清(藤田)，圧搾空氣を利用する路面擴張の爲のコンクリート鋪石分離(藤田)，列車の速度と速度抵抗(藤田)，軌條損傷の原因と對策(藤田)，ドイツに於ける自転車道(本城)，正方形サイロ壁底部の応力計算(中西)。

4. 第 22 卷第 9 號登載論文を下記の如く決定せり。
論說報告：地盤と耐荷力(會，工，西尾銚次郎)，促進汚泥法に於ける曝氣方法に就て(會，工博，池田篤三郎)，溢流堰に關する Bélanger の法則に就て(會，工，本間仁)。

討 議：浦戶港口漂砂問題研究及び港口計畫論(會，工，古河順治)，同上(著，准，工，山本將雄)，骨組測量の精度に就て(會，工，林猛雄)，同上(著，准，工，加賀美一二三)，フェノライト材齡の光弾性消光係數に及ぼす影響に就て(會，工，新郷高一)，同上(著，會，工博，久野重一郎)。

彙 報：岩徳線直轄工事費の原價計算の概要(會，工，佐藤周一郎)，隧道内コンクリート道床設計施工標準注意書(鐵道省建設局工事課)。

抄 錄：疲勞によるアルミニウム合金縦桁の破壊(住友)，水道管の電氣接地による障害(米屋)，鉄筋コンクリート桁の断面係數(米屋)，盛土用新搗固機(玉置)，コンクリート堰堤の煉瓦被覆(玉置)，Tygart 堰堤の基礎岩盤變形測定裝置(玉置)，管の型詰アスファルト接手(西村)。

特許紹介：6 件

5. 第 22 卷第 10 號登載論文を下記の如く決定せり。

沈澱池の形式と効率に就て(會，工博，池田篤三郎)，跳閘橋の重心調整法に就て(會，工，安宅勝)。

6. 新刊紹介欄を下記要項に依り新設する事と決定せり。

(1) 名稱：新刊紹介

(2) 内容：(A) 新刊單行本の紹介，(B) 官廳，會社，公共團體，學協會，研究會及び個人の調査研究報告書の紹介。

(3) 實施方法：(A) 出版書店に學會名の手紙を以て圖書紹介欄を設置せる旨通知し新刊圖書の寄贈を懇請す。(B) 編輯委員其他より廣く(2)(B) 項の印刷物を學會に通告し，之に依り學會より右發行所に寄贈を依頼する。(C) 紹介記事は編輯委員之を擔當し，又は適當なる人に依頼して大体原稿用紙 2 枚以内のものとする。

7. 時報欄を下記要項に依り新設する事と決定せり。

(1) 名稱：時報

(2) 内容：(A) 土木工事の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額及統計等のニュース。(B) 土

木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議催物の簡單なる紹介。(C)官廳、會社、公共団体の組織、事業に関するニュース。(D)法規、示方書、規定等の紹介。

- (3) 實施方法：(A)會告を以て右に關する内容のものを一般會員より募集す。(B)特に各地在住の適當なる會員に投稿を懇請する。(C)編輯委員其他學會關係者より上記事項の通知を受け學會より書簡を以て記事投稿を依頼する。(D)記事、圖面、寫眞の蒐集掲載に關し本學會地方委員に學會より協力を依頼する

第38回維新以前日本土木史編纂委員會(昭11.6.25)

出席者：眞田副委員長、江澤、眞島、藤井、板井、(和田) 島、木津、楠、安藝、古川、有働、大河戸、青山、那波、小川、前川、牧、名井、宮島、高柳各委員
井上會長、辰馬副會長、渡邊、小川、坂本各囑託、柴原書記長、小野寺庶務主任

報告事項

1. 6月25日田邊委員長より井上會長に對し明治以前日本土木史編纂委員會の報告書を提出したり。
2. 6月23日明治以前日本土木史5冊三秀舎より納付ありたり。

協議事項

1. 日本學術振興會總裁秩父宮殿下へ獻上手続をとること。
2. 滿洲國皇帝陛下へ獻上手続をとること。
3. 正誤表を作ること。

今回は最後の編纂委員會に當りしため又明治以前日本土木史の出版も既に見たるためならん會合者意外に多數にして編纂につきての苦心談各委員職員に對する感謝の意を表する辭等あり和氣篤々裡に豫定の時間に豫定の如き進行を見たり。眞田副委員長の挨拶について井上會長より明治以前日本土木史完成に對しての丁寧なる慰勞の辭ありて議事に入れり。特に配本の意外に遅れたることにつき既に前にも話ありたる如く編輯締切間際に至りて史料の送附あり隨つて編纂仕直等のことありて紙數約600頁を増加するの止むなきに至りたるため豫定1200頁を1750頁に変更せしめたることの眞田副委員長よりの説明あり。此日最後の編纂委員會なりしため一同晚餐を帝國鐵道協會に於て共にし解散したり。

報 告

本編纂委員會は、昭和7年6月30日の土木學會役員會に於て其議あり、越へて7月11日の役員會に於て編纂委員選定の議決をなしたるに端を發す。

夫れより委員の依頼をなす等夫々準備を進め編纂委員を依頼し、9月21日第1回委員總會を催したり。當時の申合せは期限約3箇年、費用約1萬円を目途とする事なりし。其れより直ちに本準備に着手し、先づ專屬職員を雇入れ事務の開始をなし、又一方東京及地方に遍く委員を依頼し、之を編纂委員及地方委員に分ち、編纂委員は事務の都合上在京者に依頼し、其専門に應じ各擔當部門を定め、史料の蒐集及執筆に當ることとせり、即ち第1部門治水、堤防、運河、砂防に於ては眞田、前川兩委員、第2部門溜池、灌溉、排水に於ては有働、片岡、板井の各委員、第3部門港津、航路標識に於ては安藝委員、第4部門道路、橋梁、渡場、關所に於ては牧、大河戸、牧野、池本の各委員、第5部門都市造營に於ては那須委員(同氏物故後榎木委員之に代る)第6部分城壘に於ては山内、久野兩委員、第7部門水道に於ては茂庭、小川兩委員、第8部門測量、度量衡に於ては名井、伴兩委員、第9部門土木行政に於ては江澤委員、第10部門施工法に於ては那波、眞島兩委員の如し。地方委員に於ては専ら其地方に於ける資料の蒐集を依頼したり。即ち編纂委員26名地方委員79名合計105名なり。

史料の蒐集には中央地方共各委員に於て極力之を努めたるが、又他方に於て東京帝國大學史料編纂所長辻博士の好意に依り、同所々蔵にかゝる稿本中より土木に關する史料の蒐集をなせり。即ち同所勤務の遠藤、森、賀月の3文學士に依頼して、上古より江戸時代に至る迄の史料の抜書をなさしめたり。

資料の援助は各府縣土木部課、耕地課或は常務委員中より、或は舊藩主及篤志家等より提供あり、又本部より各圖書館及地方に人を派して之を求めたり。

編纂委員は毎月會合し種々打合をなし會合總數38回に及びたり。編纂當初の豫定としては、紙數1200頁、昭和10年12月末日完成配本するの豫定を以て着々事務を進めたり。而して史料一先づ蒐集せられ一応各委員の編纂の大半を終りたるは10年3月なりしが、委員中に於て病氣等の事故により意外に後るゝ等の事あり、又一方其後に至り資料の送附ありて増補改訂等の事多く、爲に紙數を増加すること約600頁に及び、豫定の期日に後ること約6箇月にして、昭和11年6月を以て漸く配本の開始を見るに至りたり。

因に各委員の編纂に於て文章多少區々に涉れるを以原稿は悉く史料編纂官高柳文學士の校閲を求めた。

本書は其性質上頒布部數多きを望み難く、約700部申込を得るを目途に10年6月見本刷を配布して、木學會々員及其他の向々に對して豫約の募集をなしたが、結果に於て意外にも2079部の應募を見たり。報告候也

昭和11年6月

明治以前日本土木史編纂委員會委員長

田邊朝郎

社団法人土木學會々長

井上秀二殿

法制部記事

第1回行政機構改正調査委員會(昭11-6-23)

出席者：八田委員長、三浦(七)、鈴木、山下、古川、後藤、立花、田中、三浦(實)、池邊小野、和田、宮島各委員、井上會長、宮長部長、柴原書記長、小野寺庶務主任
井上會長の挨拶、八田委員長挨拶、各委員の自己紹介、宮長部長の挨拶あり、今回の委員會は自由なる議を交へて調査委員會の目標、方針等を決定する事と、委員長各委員等の談話次の如し。

八田委員長：次の3項の提案をなす。(イ)過去於て種々の方面に於て考へられた改正案を集むる事、(ロ)現在の土木行政機構に於ける缺點を具体的に拾ひあげる事、(ハ)理想案の立案並に實現には時間がかかるから過渡的にエクゼキューティブ・コミッティーを設け各官廳間の連絡並に現機構の缺點を補はしむる案をつる事

鈴木、山下、三浦(七)各委員：土木クラブ案其他にき話あり、土木行政を土木事業の行爲を對照として統制せんとする場合は土木省の如き案となり、土木事業の行爲を對照として統制せんとする場合は交通省等の如き案となる。要は土木の本質の捉へ難く之を如何に觀かの問題に歸する。

各委員：土木施行者に將來の維持管理を加へたる土木公共省の如きものも考へられる。藤井眞透氏の諸外の土木行政機構の調査を参照する事。

八田委員長：エクゼキューティブ・コミッティーの目は省の改廢等は仲々行はれ難いから差當り内閣に計

畫局の如きものを設けA. B. C. D各省に關連した問題につき立案並に實施の命令をなし現機構による缺點を除く、かくて比較的容易に現機構の缺點を除き得ると共に將來の理想的機構に導く階梯を作るにある。土木施行省は營繕管財局式のものであり各官廳の用品購入を一手で行ふ様な形のものとならう。假りに日本を數ブロックに分け東北6縣の上に東北廳を設くる如くにして土木關係事業は此の廳を單位として行ひ維持だけ府縣に行はしむる如き方法をとつたならば、現在より土木事業が合理的に行はれないか。

各委員：組織を單純化する事が理想ではあるが府縣に郡役所の如き中間機關の設置が叫ばれて居る如く、我國は人間が多く此の理想は容易には行はれ難い。結局行政機構の問題も人口問題と密接なる關係にある。

宮長部長：委員追加は希望あれば行ふ。

八田委員長：山下、立花兩委員を幹事とする。次回は(イ)從來の改正案、(ロ)現在の機構に於て不便なる點、(ハ)外國の土木行政機構等を持寄り研究する。

第1回土木士法案調査委員會(昭11-6-30)

出席者：眞島委員長、阿部、樺島、森、高橋、江橋各委員、宮長法制部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

宮長法制部長より本委員會設置の趣旨を説明し次で議事に移り下記事項を協議せり。

1. 本法案を作成するため先づ以て諸外國に於ける土木士法の實例を英、米、獨、佛、伊等へ在留中の本會々員又は大使館を通じて蒐集しそれを參考として調査研究すること。

2. 各委員よりも參考とすべき實例又は心付きの點を次回委員會に持寄ること。

調査部記事

第1回請負工事標準契約書調査委員會(庶11-6-19)

出席者：池田委員長、阿曾沼、上村、菅野、近藤、杉本、瀧淵、錢高、三浦(宇)、三浦(義)、宮崎各委員、井上會長、平山總務部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

井上會長より本委員會設置の趣旨に就き挨拶あり次で議事に移り下記事項を協議せり。

1. 土木學會独自の調査研究に依て工事契約の統一を図り官廳民間双方に役立つ請負工事標準契約書を作成することとし先以て次の諸方面より工事契約規程を

蒐集し参考とすることとした。

- (1) 商工省産業合理局 販賣管理 委員會 (官廳地方自治團體にて物品購入工事製造請負に關する入札手續契約條項に關する件), 建築學會外 4 聯合協定, 營繕管財局, 北海道廳, 朝鮮總督府, 靜岡縣, 長崎縣, 東洋拓殖, 滿鉄等の工事請負規定
- (2) 土木建築請負業聯合會に於て蒐集した各方面の工事請負規定 (近藤委員引受)
- (3) 東京府及東京市工事請負規程 (上村委員引受)
- (4) 鐵道省同上 (阿曾沼委員引受)
- (5) 外國關係同上 (平山部長引受)

2. 委員會に幹事 2 名を置くこととしその選定は阿曾沼, 近藤委員に一任せり。

第 2 回請負工事標準契約書調査委員會 (昭 11-7-3)

出席者: 池田委員長, 阿曾沼, 上村, 菅野, 久保, 近藤, 錢高, 瀧淵, 三浦(宇), 三浦(義), 宮崎各委員, 平山總務部長, 沼田調査部長, 柴原書記長, 小野寺庶務主任

1. 蒐集せる請負工事契約規程次の如し。

商工省産業合理局販賣管理委員會, 建築學會外 4 聯合協定, 營繕管財局, 朝鮮總督府, 靜岡縣, 土木建築聯合會 (彙報), 東京府, 東京市, 鐵道省, 外國の規程。

2. 蒐集せる各種請負工事契約規定を参考とし種々意見の交換を爲し先づ以て次の諸項目を考慮したる原案を作成することとす。

(1) 天災地変に依る賠償, (2) 指名入札に依る標準契約書とすること, (3) 契約書と工事請負規程を別々に立

案すること, (4) 設計監督としての技師を認むること。

3. 原案作成を近藤委員に一任せり。

第 4 回コンクリート調査委員會 (昭 11-6-24)

出席者: 大河戸委員長, 内山, 大石, 大野, 野坂各委員, 平山總務部長, 沼田調査部長, 五十嵐編輯主任

1. 野坂委員の下に於て取纏めたる土木學會コンクリート示方書及同解説改訂案の審議を了し之を昭和 11 年土木學會鉄筋コンクリート標準示方書として印刷することとし, 示方書は四六版 8 ボ組, 解説は菊版 9 ボ及 8 ボ組とすること, 費價に就ては理事會にて協議することとす。

2. 吉田委員よりの照會に關しては審議中なるも更に改訂に關する具体的要項を示さるゝ様委員長より回答することとす。

3. 各委員に於て改訂原案を作成し審議することとす。

第 1 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 11-6-12)

出席者: 田中委員長, 三浦, 青木, 西岡, 瀧尾, 尾崎, 富樫, 高橋, 成瀬各委員, 小野寺庶務主任, 五十嵐編輯主任

田中委員長より本委員會設置の趣旨説明あり沼田政矩君及び小澤久太郎君を委員兼幹事に依頼する事とし, 次で鐵道省及内務省現行規定に基き種々意見の交換をなし次回より各細目に互り研究調査を爲す事とせり。

第 2 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 11-6-26)

	内務省	鐵道省	獨 乙	米國公道 (1939)	米國鐵道 (1939)	一 次 決 定
鋼	7.85 t/m ²	7.85 t/m ²	7.85 t/m ²	7.849 t/m ²	7.849 t/m ²	7.85 t/m ²
鐵	7.25	7.20	7.25	7.208	7.208	7.25
鋼	7.80	7.90	7.85	—	—	7.85
鍊	7.80	—	—	—	—	7.80
鉄筋コンクリート	2.40	—	2.40	2.403	—	2.40
コンクリート	2.20	—	2.20	2.403	2.403	2.20
モルタル (1:3)	—	—	—	—	—	青木委員沼田幹事調査
石	2.60	2.50	2.80	—	2.723	2.60
煉瓦	2.00	—	1.90	—	2.408	青木委員調査
礫及碎石	1.70	1.80	2.00	1.922	1.922	公 1.70, 鉄 1.90
砂	1.70	—	—	1.602	1.922	1.70
土	1.60	—	—	1.602	—	1.60
木 材 處 理 非 處 理	0.85	0.80	1.00	0.961	0.961	青 木 委 員 沼 田 幹 事 調 査
アスファルト pressed 防 水	—	—	2.50	—	2.403	青 木 委 員 調 査

出席者： 田中委員長、青木、西岡、瀧尾、富樫、成瀬各委員、井上會長、沼田調査部長幹事、友永和夫君、五十嵐編輯主任

井上會長より本委員會設置の挨拶ありたる後次の事項を協議せり。

1. 内務省道路橋、鉄道省鉄道橋現行示方書及び米、關從來の道路、鉄道橋示方書の譯文（内務省翻譯）、並ニ米國鐵道橋（1935）、獨逸鐵道橋（1934）、佛國道路及鐵道橋（1927）各示方書を翻譯して之等を一括印刷する旨とし、役員會の承認を求むる事とす。内務省翻譯のもの印刷に關しては一応内務省の諒解を求むる事。但、獨逸示方書の翻譯は沼田幹事の下に於て行ふ事

2. 記號は土木學會鉄筋コンクリート示方書の記號に依る事、但し右以外の記號は獨米等の記號を參考として定むる事とせり。

3. 内務省土木局案の洪水防禦に關する橋梁計畫上の注意事項に就き審議を爲し、示方書の注意事項の一節として之を適當に加へる事とせり。

4. 死荷重の審議を爲し、別表の如く第一次決定値を定めたり。

公道橋面鋪裝の重量は東京市土木試験所にて目下試験中の由之が結果を基準として審議決定する事とす。

之には図面を附する事とす。（富樫委員調査）

5. 軸引張応力の許容応力の標準に就て大体の方針を協議せり。

用語調査會委員會（昭 11-6-23）

出席者： 中川幹事長、井上會長、辰馬副會長、安藝、安倍、大河戸、小川、景山、神原、菅野、草間、久保田、藏重、島、曾山、遠武、那波、細野各委員及田中、永田、中山、福田、藤井、山口、五十嵐各幹事、糸川囑託、中川書記

1. 中山委員長（代中川幹事長）より用語調査會設立以來の経過を別記の如く報告し各委員及幹事に對し懽意を述べたり。

2. 井上會長は各委員及幹事に對し本會を代表して謝の意を表せり。

3. 那波委員は全委員を代表して挨拶し委員長の報告せる幹事會案を全部承認せり。

用語調査會経過

(1) 昭和 3 年 3 月：編輯委員會にて用語統一を發議

(2) " 5 月：役員會にて用語調査會設立

(3) 準備委員：中山、中川、那波、牧、黒河内の諸博士

(4) 設立當時の委員：委員 106 名、内幹事 21 名、委員長中山秀三郎博士

(5) 現在の委員：委員約 150 名、内幹事約 50 名、幹事長中川吉造博士

(6) 部門數：(1) 応用力学 (2) 水理 (3) 測量 (4) 河川 (5) 砂防 (6) 發電水力 (7) 上水道 (8) 下水道 (9) 港灣 (10) 道路 (11) 橋梁及構造物 (12) 軌道 (13) 鐵道 (14) 都市計畫 (15) 材料及施工法 (16) 土木機械

(7) 昭 3. 10. 19：第 1 回幹事會 爾來用語を選定し擔當幹事原案作製の上幹事會にて一語一語審議せり。

(8) 昭 4. 11. 22：第 16 回幹事會に於て分科會を設置し分科會原案を幹事會にて審議することとし幹事會原案を作製し之を各委員に送附して委員の意見を求め更に分科會にて審議せるものを幹事會にて協議して幹事會案を會誌に登載して一般會員の意見を求めることとせり。

(9) 昭 11. 4. 15：第 42 回幹事會に於て
(1) 各部門重複用語は分科會を出来るだけ早く開催の上審議する事、(2) 用語集体裁、組方、表裝等に就て協議決定す。

(10) 昭和 11 年 4 月 21 日より 5 月 5 日迄に 4 回の分科會を開催し重複用語を審議し幹事會に於て決定せり。

(11) 昭 11. 6. 23.：整理印刷準備中

東亞部記事

第 1 回東亞連絡委員會（昭 11-6-16）

出席者： 久保田委員長、山崎、内田、末森、岡田、山田、鶴田、山中各委員、井上會長、宮本東亞部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

井上會長 東亞部從來の経過、東亞連絡委員會の目的、他協會との協力の必要に就き挨拶あり、久保田委員長の挨拶、各委員自己紹介をなし、宮本東亞部長より南滿洲鐵道との從來の交渉経過及本日の議事項目に就て説明ありたり。

1. 東亞各國の範圍：本委員會に於て聯絡を保た

んとする主なる東亞諸邦は次の如し

滿洲、中華民國、蒙古、フィリッピン、交趾支那、スマトラ、シヤム、ビルマ、印度、アフガニスタン、ベルシヤ、土耳其及南洋

2. 各委員分擔

(イ) 官廳、會社關係。鉄道省：岡田信次君、内務省：末森猛雄君、陸軍省：内田莊一君、外務省：山中寛治君、南滿洲鉄道株式会社(東京支社員より委員推薦方久保田委員長引受)、其他の官廳とは必要に応じ其都度分擔委員選任

(ロ) 学校關係。帝國大学：山崎匡輔君、日本大学：成瀬勝武君

(ハ) 他学協會關係。分擔委員は必要に応じ其都度選任するものとす、但し差當り本會東亞部主意書を下記学協會に配布するものとす

(1) 外務省内文化事業第2課 (2) 東亞研究會 (3) 滿洲技術協會 (4) 日華學會 (5) 日印協會 (6) 日暹協會 (7) 外交協會 (8) 日本技術協會 (9) 對支文化事業 (10) 工政會 (11) 工学會 (12) 十五學會

(ニ) 外國關係。前記各外國に夫々委員若干名を選定し將來の連絡に資する事

3. 幹事に山崎匡輔君、岡田信次君を選定す。

4. 留日學生に關する調査：滿洲國及中華民國よりの留日學生に關しては委員山中寛治君に調査を委嘱せり。

5. 本年度事業要目：本年度事業要目に就ては差當り決定に至らず。

6. 東亞研究會との連絡：久保田委員長引受

7. 座談的話題

(イ) 留日學生招待會：成可く早く資金を調達し留日學生を招待し懇談喚餐會を開催し連絡及親睦を図る事、

(ロ) 留日學生に本會を紹介し、入會を勧誘する事

(ハ) 本邦に留學生たりし者の近況を調査して之れに技術的の援助を與ふる事、

(ニ) 留日學生に目的学科就学特に土木学科就学の途を開きたき事

8. 其他注意事項：外務省宛文書は凡て外務次官

宛を好都合とす(山中君提言)南滿洲鉄道株式会社並に東亞研究會より資金を得る様努力する事

第2回東亞連絡委員會(昭11-7-3)

出席者：久保田委員長、山崎、成瀬、内田、岡田、正子、山中各委員、柴原書記長、小野寺庶務主任

官廳其他との連絡に關し擔任委員より、留日學生數調査に關し山中委員より夫々報告あり次で下記事項を協議せり。

1. 滿鉄に對し東亞部事業其後の経過を報告旁々援助方を更に懇請すること、文案は幹事に於て起草し次回の委員會に諮ること。

2. 滿鉄關係の委員依頼の件は滿鉄伊澤東京支社長に委員の選出方を依頼すること。

3. 土木關係留日學生の名簿を作成すること。

4. 土木關係留日學生(卒業生)の調査並にその入會勧誘。

5. 萬國工業會議に出席せる東亞各國の土木技術者に對し東亞部事業の趣意書を送り且つ入會の勧誘を爲すこと。

6. 留日學生をして土木工学を専修せしむる大学校の設立に就き考究すること。

7. 座談的話題

(イ) 滿支人の本會入會者に對し學會より入會證(會員證)を交附することとしては如何。

(ロ) 土木關係留日學生を學會に招待しては如何。(以上山中委員より提案)

その他の記事

○昭和11年6月22日第3回工学大會講演集の預約募集パンフレットを全會員に配布せり。

○昭和11年6月28日土木學會誌第22卷第6,7號(合本)を發行し成規の手續を了し6月29日全會員に配布せり。

○明治以前日本土木史を6月30日より預約申込者に配本を開始し7月12日全部の配本を終りたり。

入會及び転格會員

(昭 11-6-15 手續了)

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
飯野 忍君	廣島鉄道局工務課保線掛	佐藤雄太郎君	吳海軍工廠總務部	藤田龜太郎君	
岩波 光明君	株式會社岡組	高橋 勝利君	滿鉄白城子建設事務所	柳田喜久雄君	東洋拓植株式會社
河村 賢彦君	岐阜市役所水道課	永窪作二郎君	廣西北道廳土木課安東派出所	渡邊 逸 郎君	名古屋市電氣局工務課土木係
菊池善次郎君	大日本電力株式會社	猶原 恭爾君	東京府墨島師範學校	門 司 孝君	南滿洲工業專門學校
北原 邦三君	滿鉄吉林鐵路局	羽田 菊三君	南滿洲鉄道株式會社		
		學 生 員 (入 會)			
秋竹 敏實君	九州帝大	高橋 健二君	北海道帝大	福田 水門君	九州帝大
今川 晃君	北海道帝大	竹熊 省之君	熊本高工	穂積 輝夫君	東京帝大
岩本福太郎君	早稲田高工	中西 武君	東京帝大	星野 志郎君	九州帝大
入江 但君	東京帝大	中村 稔君	北海道帝大	前澤 肥君	東京帝大
内海 哲衛君	仙臺高工	中村 保雄君	東京帝大	増田 恭一君	九州帝大
江刺 十郎君	東京帝大	仁 杉 巖君	〃	松本 昌三君	日大専門部
江里口正夫君	九州帝大	西村 武夫君	九州帝大	宮下 靜雄君	早稲田高工
小笠原正三君	北海道帝大	野坂 純三君	北海道帝大	森 隆 弘君	〃
尾形 逸 郎君	仙臺高工	野田 亨君	九州帝大	矢野 透君	九州帝大
大塚 謙一君	九州帝大	長谷川盛一君	〃	遊佐志治隣君	北海道帝大
小島 薫君	日大工學部	波多江 壽君	〃	吉 井 皎君	熊本高工
左合 正雄君	東京帝大	春 成 正君	九州帝大	吉田 榮延君	東京帝大
税所 重藏君	熊本高工	肥後 春生君	〃	葉 仁君	九州帝大
篠山 利平君	早稲田高工	廣田 兼賀君	〃	浦濱 武雄君	日大工學部
高久 近信君	東京帝大	布施 敏一郎君	北海道帝大		
		會 員 (転 格)			
橋川 保君	山口縣土木課	准 員 (転 格)			
青木 光君	滋賀縣大津工區事務所	菊地 隆君	南滿洲鉄道株式會社	中 忠 雄君	佐賀縣唐津港修築事務所
板倉 正治君	株式會社岡組	小林健三郎君	神戸市役所水道部擴張課	野見山 太君	福岡縣伊田土木管區事務所
岩間 太郎君	京都府京都土木事務所	佐藤 導君	岡山市役所土木課	乘 富 士 郎君	日本鐵業株式會社
内田 壽雄君	臺灣總督府交通局鐵道部	齋藤 外吉君	滿鉄大連鐵道事務所	廣田 賢治君	
大嶺 金助君	撫順炭鐵探採課	鷹取 正二君	富山縣電氣局土木課	古川 弘道君	水戸市役所土木課
香羽 正夫君	神奈川縣土木部道路課	谷 脇 謙君	哈爾濱鐵路局工務處改良科	森 茂君	海軍省建築局
瀧原 正吉君	福岡縣福岡土木管區事務所	津川 清君	朝鮮鐵道府鐵道局工務課	網島 恒夫君	
川上 正三君	阿部美樹志事務所	寺 嶋 重雄君	大阪市役所水道部技術課		

土木學會々員數

(昭 11. 6. 15. 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
2702	2750	519	3	20	5994

圖書及雜誌

(昭和 11 年 6 月中)

交 換		會 務 彙 報	
日本建築士 特許公告明細書 會 報	第 18 卷 第 6 號 昭和 11 年 6 月 第 37 卷 第 5 號	日本建築士會 特 許 局 帝國鐵道協會	第 54 號
都市問題 道路の改良 資 源	第 23 卷 第 6 號 第 18 卷 第 6 號 第 6 卷 第 6 號	東京市政調査會 道路改良會 資 源 局	工学院同窓會誌 都市計畫東京地 方委員會議事進 記錄
水道協會雜誌 地震研究所彙報	第 37 卷 11 年 6 月 第 14 卷 第 2 冊	水道協會 東京帝國大學地震 研究所	第 6~8 號
建築と社會 資源資料要錄 港 灣	第 19 輯 第 6 卷 (外國の部) 第 1 號 第 14 卷 第 6 號	日本建築協會 資 源 局 港 灣 協 會	6 月號 第 339 號
工 政	11 年 6 月 193 號	工 政 會	日本ポルトランド セメント同業會
滿洲建築雜誌 衛生工業協會誌 造船協會雜誌	第 16 卷 第 6 號 第 10 卷 第 6 號 第 171 號 11 年 6 月	滿洲建築協會 衛生工業協會 造 船 協 會	工 事 畫 報 東京工業大學 報
電氣學會雜誌 機械學會誌 工業化學雜誌 工業化學雜誌歐 文別冊	第 56 卷 第 6 冊 第 39 卷 第 230 號 第 39 輯 第 6 冊 第 39 編 第 6 冊	電 氣 學 會 機 械 學 會 工 業 化 學 會 工 業 化 學 會	第 12 卷 第 6 號 第 5 卷 第 6 號
鐵 と 鋼 業務研究資料	第 22 年 第 5 號 第 24 卷 第 13~ 16 號	日本鐵鋼協會 鐵道大臣官房研究 所	第 3 卷 第 3 號 第 5 卷
熔接協會誌 建築雜誌 日本鑛業會誌 滿洲技術協會誌	第 6 卷 第 4 號 第 50 輯 第 613 號 第 52 卷 第 614 號 第 13 卷 第 86 號	熔 接 協 會 建 築 學 會 日 本 鑛 業 會 滿 洲 技 術 協 會	50kg A.R.A.—A 軌條用継目釘の 改良に就て
寄 贈			滿洲電氣協會會 報
塗料規格 土木試驗所概要 區劃整理	第 2 編乃至第 7 編 昭和 11 年 3 月 第 2 卷 第 6 號	工 業 化 學 會 內務省土木試驗所 土地區劃整理研究 會	第 36 號 昭和 11 年 5 月
建 友 研究報告講演集(1)	11 年 5 月 第 35 號 昭和 11 年 1 月	建 友 會 日本學術振興會學 術部	建 設 工 業 現 勢
浪速工業時報 土木業協會々報 市、區、町、村別面積、人口並人口密 度及增加率調書	第 41 號 11 年 5 月 第 63 號	浪 速 工 業 會 土 木 業 協 會 東 京 府	第 5 卷 第 6 號 第 10 卷 第 7 號 11 年 6 月 第 158 號
			報 物 國 立 公 園 事 業 報 告
			第 8 卷 第 6 號 第 8 卷 第 6 號 昭和 10 年度前期
			工 學 工 業
			昭和 11 年 6 月 262 號 第 4 卷 第 1 號
			駿 工
			第 12 卷 第 6 號
			品川客車操車場計畫に關する調書
			帝國學士院記事 セメント工業 エンジニア
			第 13 卷 第 5 號 昭和 11 年 7 月 第 15 卷 第 162 號
			利 根
			第 2 卷 第 6 號
			土木建築雜誌 日立評論 學術報告
			第 15 卷 第 6 號 第 14 卷 第 6 號 第 2 卷 昭和 11 年 6 月
			鐵 道 工 學
			下 卷
			顧 臺
			カナノヒカリ 第 175 號
			日本土木建築諸負 業聯合會 工学院同窓會 都市計畫東京地方 委員會 日本ポルトランド セメント同業會 工事畫報社 東京工業大學 沖電氣株式會社 コロナ社 南滿洲鐵道株式會 社 滿洲電氣協會 滿洲道路研究會 東京工業大學 鐵道技術社 名古屋工業會 日本鑄物協會 國立公園協會 日本學術振興會學 術部 東京工學社 東京工業大學藏前 學友會 日本大學駿工會 鐵道省東京改良事 務所 帝國學士院 セメント工業社 都市工學社 利根製作營業所 シビル社 日立評論社 名古屋高等工業學 校 齋藤朴 十川嘉太郎 カナモジカイ

購 入

Der Bauingenieur, 17 Jahrgang, Heft, 19~24, Juni
1936.

Beton und Eisen, 35 Jahrgang, Heft 10~11, Juni
1936.

Die Bautechnik, 14 Jahrgang, Heft 21~25, Juni

1936.

Engineering News-Record, June 1936, vol. 116,
No. 18~23.

Le Génie Civil, Tome CV III, No. 20~23, Juin
1936.

會員 長尾半平君 昭和 11 年 6 月 2 日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し、
恭しく哀悼の意を表したり。

會 告

時 報 欄 の 新 設 と 記 事 募 集

来る 9 月號より本誌に時報欄を新設して、下記内容の記事を掲載する事に致しましたから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。尙掲載の分には薄謝を呈します。

- A. 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣功の狀況、金額等のニュース
- B. 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- C. 官廳、會社、公共團體の組織、事業に関するニュース
- D. 法規、示方書、規定等の紹介

土 木 工 学 用 語 集 豫 約 募 集

昭和 3 年より本會用語調査會に於て鋭意研究調査を進めて來た土木工学用語を編纂し土木工学用語集を發行致す事となりました。本用語集は從來の諸種の辭典とは全く趣を異にし日、英、獨、佛の 4 箇國語を網羅し各語に就て簡單なる定義解釋を附してあります。定價 2 円 50 錢の所を豫約申込の本會々員に限り特價 1 円 80 錢にて御願ひ致しますから此の好機を逸せられず御申込下さい。



實物見本
(縮寫)

- 内 容: 要本文約 500 頁
索引約 200 頁 (英獨佛各別)
- 装 幀: 總クロース上製菊半截判
- 特 價: 1 円 80 錢
- 送 料: 東京市内 12 錢, 内地 15 錢
臺灣・樺太・朝鮮・滿洲 42 錢
- 豫約申込締切: 8 月 30 日
- 申 込 所: 土木學會 (振替口座東京 16828)
- 申 込 方 法: 内容見本に添附の振替用紙を利用され度し

會 告

工 事 寫 眞 募 集

工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明と御記入下さい。登載の分には薄謝を呈します。

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうか知人の方は御手数恐入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員

荒川 參太郎君
森 増能君
安西 榮太郎君

稻葉 彌吉君
張 惟和君
山本 保之助君

木村 眞一郎君
陳 毅棟君
久保田 豐君

小林 源次君
丸 林 純一郎君

准 員

和泉 高 嚴君
田中 武次君
佐藤 與吉君
栗田 忠治君
萬 斯 選君
福島 保君
高橋 理三郎君
吉見 胤 隆君
吉田 三 億君
平本 源太郎君
宮 田 藤君
石 原 三 郎君

池田 乙次郎君
坪 井 基君
徐 三 善君
小林 義雄君
關 佳 夫君
船橋 貞一君
武田 惣一郎君
中野 順太郎君
中 哀 汝 誠君
藤村 禮士君
片岡 藤君
齋 藤 賢 策君

池田 角大郎君
楠 方 政雄君
萩原 仁六君
田所 要吉君
曾 我 進君
山 尾 茂 夫君
本 橋 二 郎君
難 波 壽 一君
劉 作 植君
城 内 清 太君
山田 政次郎君
多 田 安三郎君

柿崎 景久君
大 崎 三吉君
大 塚 野口 金岩平君
田 高 瀬 野 大 隆 雄君
矢 丹 羽 賢 家君
濱 崎 順 四郎君
水 原 豐 文君
濱 田 清 治君

會 告

維新以前日本土木史編纂委員會事業終了に就て

會 長 井 上 秀 二

明治以前日本土木史の編纂は本會事業の一つとして最も有意義なものであると思ふのであります、この土木史の編纂に當りましては委員長田邊湖郎君、副委員長眞田秀吉君、其他約100名の委員が昭和7年9月以來約4ヶ年に渉り資料の蒐集乃至調査研究等多大の御努力をせられまして茲に漸く完成を見て會員その他の關係者へ頒布することを得ました事は偏に委員各位の熱誠なる御盡力と御苦心の賜と深く厚く感謝の意を表する次第であります、この貴重にして有益な我邦唯一の土木史が本會に於て編纂せられまして斯界に貢獻することの大なるを思ふとき誠に御同慶の至りに堪へざる次第であります、本委員會の事業も完了致しましたので茲に會員一同を代表致しまして委員其他各位の御努力に對し重ねて感謝の御挨拶を申し上げる次第で御座います。

會 告

日本工學會に於ては本年6月メートル法使用に關する別記意見書を首相、各省大臣、度量衡制度調査會々長に提出し並に同意見書を印刷して下記各關係方面に送附せり。

度量衡制度調査委員會委員。樞密院議長、副議長、顧問官。貴衆兩院議員。内閣書記官長、書記官、秘書官、局長、課長。各省次官、政務官、局長、課長。各市町村長。商工會議所。學術團體。産業團體。各新聞社及工業雜誌社。各政黨の政務調査會。専門學校長。

意 見 書

メートル法に依る度量衡統一の實を擧ぐることの緊要なるは更めて架説を須みざるところと信じ候得共邦家工業其の他の現状に鑑みて愈之を痛感するの餘り左に概要を具情し謹で御賢察を奉仰候

昭和 11 年 6 月 日

社團法人日本工學會理事長 眞 野 文 二

社員 社團法人 日本鑛業會 日本鉄鋼協會 土木學會 火兵學會
造船協會 建築學會 工業化學會 衛生工業協會
電氣學會 電信電話學會 機械學會 照明學會
日本鑄物協會 日本冷凍協會 熔接協會

記

1. 現行度量衡法の主眼とするところは度量衡の統一に在り 従前我工業界に於ては各種度量衡混亂して其の據るべきところを知らず事々物々絶大なる不便不利を醸して工業の進歩發展に多大の支障を招來し殆ど收拾すべからざる實狀の下に多年慘憺たる經驗を味ひ來れり 然るに大正10年度量衡の統一的制度確立せらるゝに及び積年の障碍苦悶を脱し得る最も適切なる處置として全面的に歡迎せられ爾來諸工場及諸工事に於ては鏡意メートル法に則る度量衡の單一化に努力したる結果逐年其の普及を見重要工業圈内に在りては今や殆ど徹底の域に到達したるの觀あり 而して政府は曩に工業品規格統一調査會を設置し重要工業品の標準規格をメートル法に則りて決定せられ其の公布を見たるもの既に三百種を超へ産業能率増進の上に多大の貢獻を爲せること周知の如し
1. 然るに若し今日尺貫法を本位とし若は之が併用を認むる等のことあらんか我工業界は必然的に往時の混亂状態に逆転し折角驚異的進展を遂げつゝある我工業の前途に一大暗影を投ずるに至るべきは必至自明の理にして眞に憂慮に堪へざる邦家の大問題なりと謂はざるべからず
1. 他面工業動員に於ても度量衡の統一は其の計畫施措の根幹を爲すものなるが萬一之を混用状態に逆転せしむることあらんか規格統一を紊るの結果は忽ちにして能率の激減を來し一朝有事の際に

は各種の支障続出して國家總動員の達成を害すること絶大なるは言を須ひず寔に事態を想像する
だに戦慄を禁じ得ざるものあり

- L. 現下我國教育の實際に於て工業教育は勿論各層の教育孰れもメートル法に依りて教授を行ふの結
果數量的觀念は既に全く此の基礎の上に培養確立せる實情なるに若し学生兒童をして再び此の點
の混亂を経験せしむるに至らば其の教育上及社會上の惡影響眞に容易ならざるものあることも亦
識者を俟たずして明かなり
- L. 叙上の如くメートル法は多年官民の確信協力の下に單り工業界のみならず極めて廣範圍に普及せ
られ一般國民漸く之に習熟を見んとするの際一部に尺貫法本位説又は併用説等の提唱せらるゝは
眞に遺憾の極みにして斯くの如きは苟も度量衡法の本質を解し又は工業の實狀に通じ或は工業動
員の意義を辨ふる者の断じて採らざるところなり
- L. 惟ふに方今國民生活を合理的ならしむる爲め並に國際間に於ける工業其の他一般産業界の競争年
と共に深刻の度を加ふるが爲め制度及運用の上に於て只管産業能率の向上を図るは各國共通の國
策なり

斯の秋に方り夙に自明の基礎に立ちて設定せられ習熟實施亦た漸く普遍の途を辿りつゝある嚴然
たる制度に對して逆行的言説の行はるゝが如きは先進國家として洵に悲しむべき事象と謂はざる
べからず宜しく事案を正視し實情を稽察し速に至當の措置を講じて邦家百年の長計を過つことな
きを切望して已まざるものなり

既刊會誌殘部内譯

上記各冊の取崩価格(印刷部)の概算を
(○は残部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.50
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.00
15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.00
第20巻第12號(創立20周年記念號)													1.50
第21巻第7號(會誌索引付)													1.30
読書調査報告書(1,2,3)													18.00
応用力学聯合大會講演集													1.00
鉄筋コンクリート標準示方書													0.50
同、修正版の解説要旨													1.00
土木工学論文抄録													3.50
土木学会誌索引(第1巻第1號-第20巻第12號)													0.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を基盤口座東京46828番に拂込用紙通信欄にと、
貴會の旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	裏表紙3面 向及廣告初頁		1回1頁	40円
	裏表紙3面		1回1頁	70円
	色アート		1回1頁	60円

- 指定廣告は凡て1箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

廣告料の請求は、印刷部へ送付せられたる會誌の巻末に添付の用紙にて行ふこととす。

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種別	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 450 円	金 450 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたい。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 健 雄	板 倉 誠	稻 葉 通 彦	大 久 保 一 郎
	岡 崎 三 吉	加 藤 伴 平	樫 部 保	嶋 野 貞 三
	鈴 木 清 一	長 田 誠 三 郎	野 坂 孝 忠	廣 瀬 孝 六 郎

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXII, NO. 8, AUGUST 1936.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society,	59
Papers.	
On the Improvement of the Zyoganzi-River. <i>By Masayosi Tominaga, C. E., Member.</i>	729
Flood into the Railway Station Compounds in Ôsaka. <i>By Samata Sakamoto, Member.</i>	763
Discussions.	771
Notes on Matters of Interest.	785
Abstracts of Selected Articles.	801
Patent News.	837

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.